

編集後記



3月15日、陸前高田市に入った被災地支援班が撮影した市内中心地



避難所の市立高田第一中学校で被災者の健康状態を聴く看護師



昭和62年7月、家族計画国際協力財団（JOICEP）の招きで日本の保健衛生現場を学ぶために当協会を訪れた途上国の一人の男性が「何故このような活動が続けられるのか」と問いかけてきた。それが何を求めているのか戸惑ったが、咄嗟に浮かんで答えたことばが「笑顔が見たいから」だった。私のことばは通訳を介して彼に伝わった。途端に彼は、私の手を強く握った。早口で何かを語っているのだが、心が通じたことだけは分かった。「笑顔」は世界の共通言語、素直に嬉しかった。

我が協会の人事理念は「笑顔の創造」。笑顔は健康や幸せの象徴であり、協会の基本理念に通ずる。自らが健康であるからこそ県民の健康づくりの支援ができ、仲間や関係者の笑顔に助けられ県民の笑顔を創造することができる。

40年の軌跡を辿れば幾多の苦難と危機があった。それを乗り越えられたのは笑顔があったからであり、そのまた向こうにより大きな笑顔があると信じて進んできたからである。それが我が協会の原動力であり、先達から引き継がれた伝統である。

50年目への新たな一步を踏み出そうとする直前の平成23年3月11日金曜午後2時46分、笑顔が消えた。

沿岸の大船渡市では、労働基準協会を会場に地元企業の従業員を対象とした健康診断の最中であった。「津波が来る、すぐ逃げろ」高台へ避難した職員5人の安否が確認できたのは、丸2日経った日の夜であった。白衣のままで無事に帰って来た職員、それを迎える職員、どちらも涙交じりの笑顔と笑顔であった。

未曾有の大地震と津波がもたらした我が郷土岩手と我が協会への影響は、かつて経験したことのない試練となることは間違いない。

しかし、われわれの「笑顔」と40年の「歴史」は、必ずや復興への励ましとなり試練を乗り越える力になるものと信じる。

週が明けた地震発生後4日目を迎えた15日火曜の朝、3班に分かれた被災地支援チームが熱い使命感と緊張感を抱きながら沿岸へ向け出発した。

平成23年3月16日

40周年記念誌編集委員会 委員長 松尾洋一

予防に勝る治療なし

Prevention is better than cure.

40th Anniversary Iwate Health Service Association

財団法人岩手県予防医学協会創立 40 周年記念誌

財団法人岩手県予防医学協会 創立 40 周年記念誌編集委員

委員長 松尾 洋一
委員 関端 一男
土橋 和子
佐々木晶子
菅原 裕之
菊池 和子
津島 豊
金濱 雄悦
畠山亜矢子

●発行日 平成 23 年 4 月 10 日

●発行 財団法人 岩手県予防医学協会

〒 020-8585 盛岡市永井 14-42

TEL 019-638-7185 FAX 019-637-1239

●編集 岩手県予防医学協会創立 40 周年記念誌編集委員会

●印刷 山口北州印刷株式会社

〒 020-0184 盛岡市青山 4-10-5

TEL 019-641-0585 FAX 019-648-1020

●制作スタッフ

デザイン 金谷克己 (editions)

執筆 牧野立雄

撮影 川代大輔